インフルエンザの発生状況(富山県)

【第 43 週（2026/10/19～10/25 ）感染症発生動向調査速報値（ 2026/10/28 時点）】

定点医療機関※新規患者報告数： **481** 人、定点医療機関当たり **10.02** 人

※急性呼吸器感染症定点（旧インフルエンザ/COVID-19定点、小児科29定点、内科19定点）

図1. 患者報告数の推移（富山県）

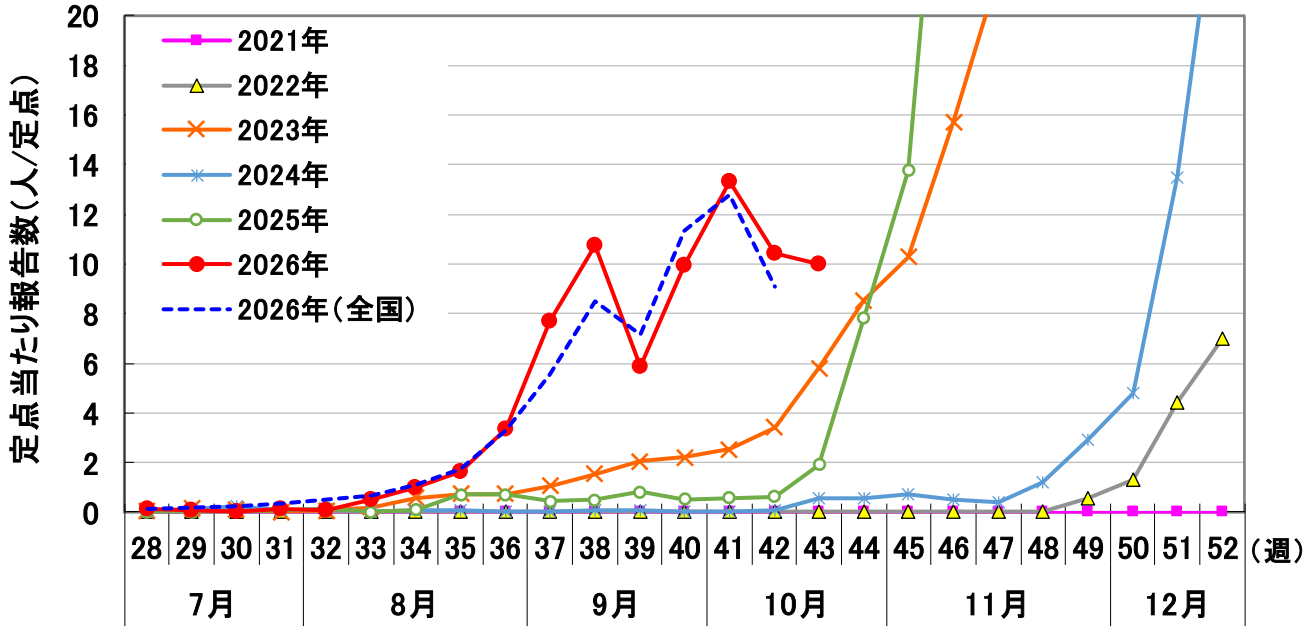
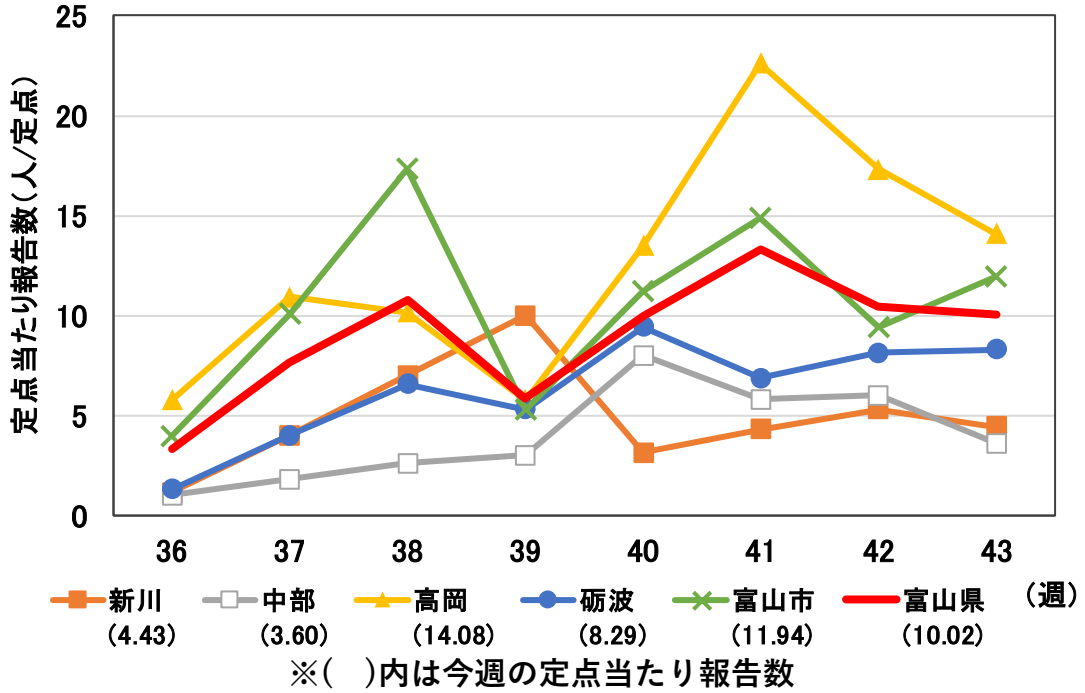


図2. 厚生センター・保健所管内別患者報告数の推移



- 富山県の患者報告数は今週10.02人/定点となり、先週（10.42）から減少した。（図1）。
- 厚生センター・保健所管内別に見ると、新川、中部、高岡管内で先週から減少した一方、砺波、富山市管内で先週から増加した（図2）。

図3. 年齢階級別インフルエンザ報告数の推移（富山県）

図3-1. <20歳

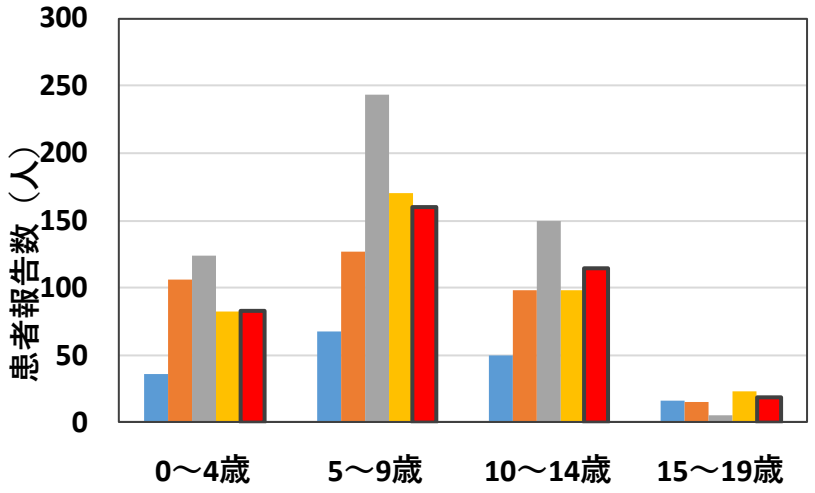
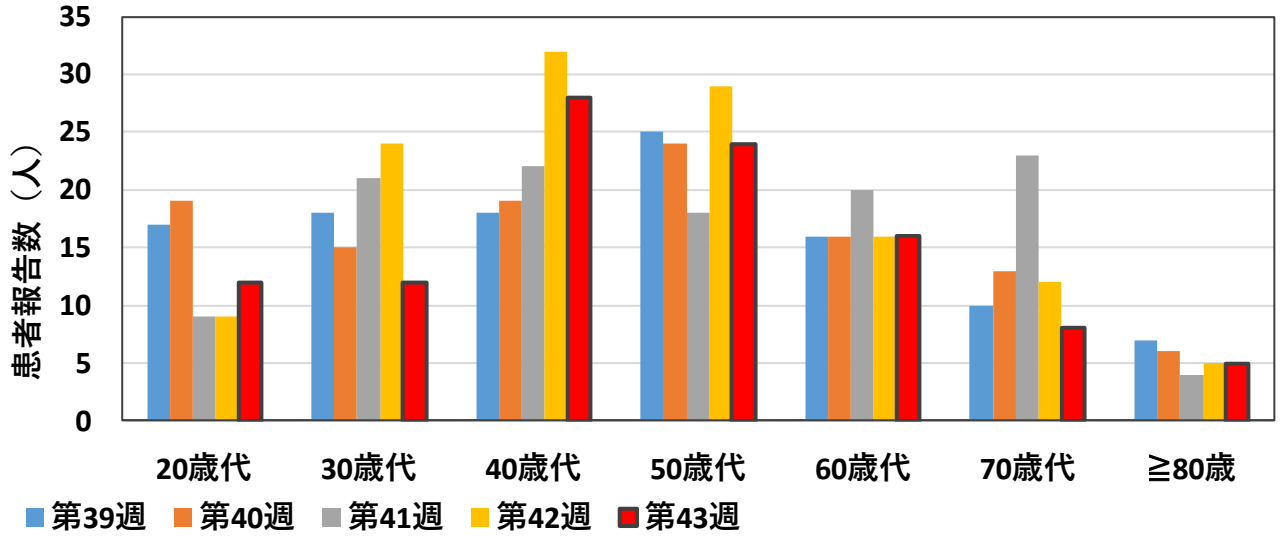


図3-2. ≧20歳



- 10～14歳、20歳代で先週から若干増加した。一方、その他の年齢では減少または横ばいであった。

※定点医療機関は小児科が多い（小児科：29定点、内科：19定点）ことから、小児の報告数は成人と比較して過大評価となることに留意する必要がある。

図4. 都道府県別インフルエンザ報告状況（第42週）

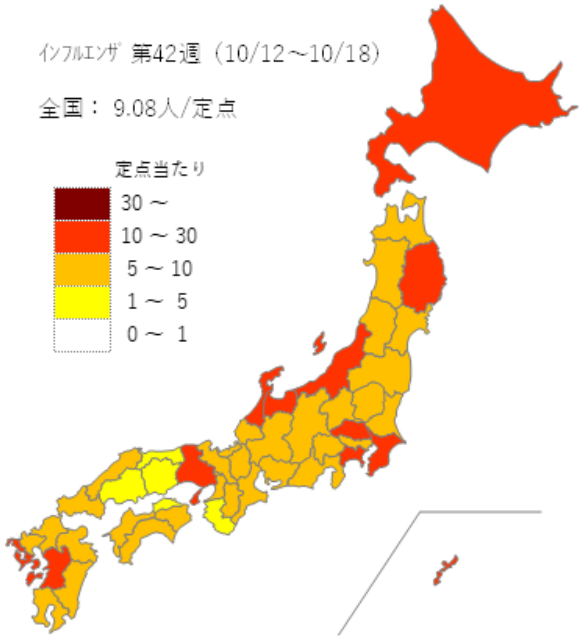


図5. インフルエンザ入院サーベイランス
患者報告数の推移（富山県）

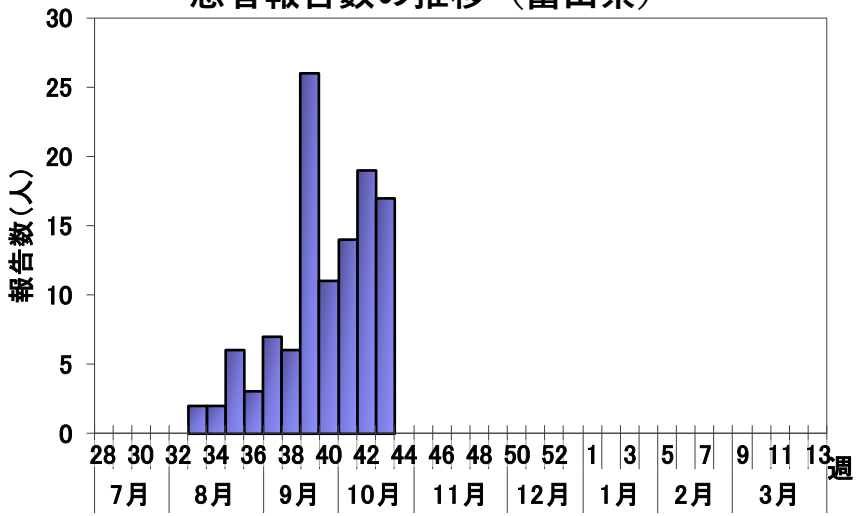
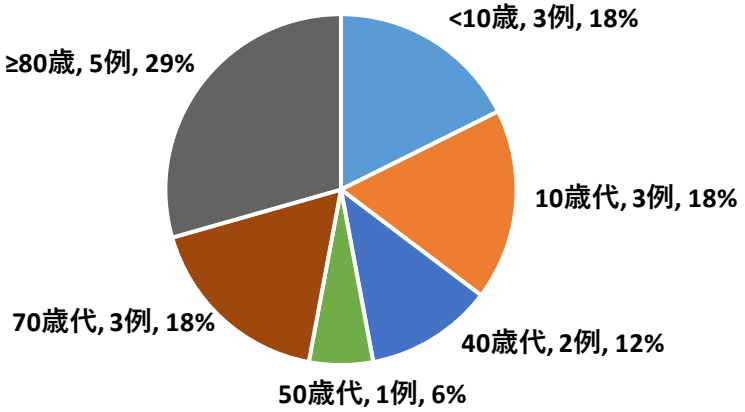


図6. インフルエンザ入院サーベイランス
年代分布（第43週、17例）



- 全国では第42週に9.08人/定点となり、第41週（12.81）から減少した。
  都道府県別にみると、12道県で注意報レベルの基準である10.0人/定点を超えている（図4）。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランスでは、今週17例の報告があり、先週（19例）から減少した（図5）。
- 入院患者の年代は、50歳代が1例、40歳代が2例、10歳未満、10歳代、70歳代が各3例、80歳以上が5例であった（図6）。
- 県内の患者報告数は第41週以降、2週連続で減少した。ただし、注意報レベルの基準を上回る流行は継続していること、学級閉鎖等の報告があることから（富山県インフルエンザ関連情報）、今後の発生動向を注視する必要がある。